令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号３２７　大泉第二中学校

	課題分析	授業改善策
国語	言葉に触れる習慣や家庭学習の習慣が定着しておらず、語彙力の不足や学習の積み上げがなされない状況が見られる。目の前の情報を的確に受け取り、自分なりに解釈したうえで、考えを言葉で表現することに課題がある。これらが学習への理解度や、思考力・判断力・表現力等に影響を与えている。	小テストの継続や、授業中に紙の辞書を活用した調べ学習の時間を取り入れ、基礎的な語彙力の定着を図る。また、既習事項と未習事項のつながりを意識した単元の振り返りを行うとともに、「書く」「話す」といったアウトプットの機会を積極的に取り入れて、理解度の低い生徒にも適切な支援を行う。
社会	教科書の重要語句や小学校での学習事項など基礎的・基本的な知識や技能の習得の差がある。また、学習規律・学習方法が身に付いていない生徒が多い。これらが学習への理解度、意欲、思考力・判断力・表現力等に影響を与えている。	小テストや単元の復習等を行う。また、意欲や思考力を高めるために、自分の意見をまとめたり、他者の意見を参照したり、発表を行ったりする際に ICT 機器を積極的に活用して、理解度の低い生徒に適切な支援を行う。
数学	全国調査の結果より、多くは全国平均よりも高い正答率であるが、データの活用領域においては下回るものがあった。図やグラフなどを分析・考察し、その内容を表現することに課題が見られる。解答を求めるだけでなく、そこに至る過程をきちんと表現・説明させるような指導の工夫が必要である。	単元間の繋がりを意識させることで、学習内容を整理して理解させる。また対話場面を意図的に設定し、各問に対する考え方を表現させる機会を設ける。その積み重ねにより、学習内容の定着させ、深い学びの実現を図っていく。
理科	１年生は基礎学力の定着、２年生は思考力を用いた問題を解決する力、３年生は実験の結果から考察を行う力に課題がある。全学年で自分の考えなどを表現することが苦手な生徒が多い。	授業内で問題演習などを行い、基礎学力の定着を図るとともに、ICT 機器を活用して生徒が文章を書く時間を十分に確保し、実験結果を分析・考察する力を高めていく。
音楽	授業は発言も多く意欲的に取り組む生徒が多い。歌唱に対する積極性もあるが、音楽が苦手と感じている生徒もいる。器楽に関しては技能の習得にばらつきがある。	自分からどう表現したらいいかわからない生徒には、2 つ以上の選択肢から選び引き出すようにしていく。楽曲のもつ諸要素を理解し、歌唱表現に活かせるようにするとともに、発声に力を入れ、美しくて力強いハーモニーを作る技能を身に付けていく。器楽はペアワークを基本とし、教え合い学び合いを通して自分が練習していない時に相手を見ることで自分にも還元するポイントを見付けるよう促す。
美術	課題ごとに個々の制作状況を把握し、改善を図ってきたが、努力を要する生徒やなかなか制作が進まない生徒がいる。技能や発想の能力を高めていく必要がある。	タブレット端末を活用し、生徒の制作過程を把握し、授業中の観察だけでは不十分な個々のつまずきの状況に応じて指導する。また、個に応じた資料を効果的に活用し、発想豊かに育めるよう指導する。
保健体育	基礎体力、基本動作の定着に差が出てきている。体力向上が著しい時期なので、運動量の確保をすること、最低限身に付けさせたい基礎体力を補強運動で定着させる必要がある。	授業の進め方は、毎時間繰り返し行える内容にするとともに、運動時間を確保する。また、生徒の基礎体力を確認しながら、補強運動の種類や回数の設定をし、毎時間取り組ませることで定着を図る。性差による技術、体力の違いを踏まえながら相互に高め合えるよう授業を行う。
技術家庭	基本的な知識・技能の定着に差が出ている。生徒の体験不足や基礎的な技能が十分に定着していないため、課題解決する力を高めていく指導の工夫が必要である。（技術） 製作において、技能に課題のある生徒や不明点を自ら聞くことのできない生徒への声かけや、技能や主体性の向上に結び付く指導の工夫が必要である。（家庭）	全体指導と個別指導の時間を生徒の実態に応じて振り分け、実物見本など視覚からの指導を行う。また、本時の目標や振り返り、自己評価をさせて、自身の進度の認識をさせる。（技術） 製作カードに本時の目標や自らの課題点を書き、進度における差を意識させる。個に応じて声掛けや、動画をループで流したりするなど視覚的な支援をしていく。（家庭）
外国語	おおむね授業への参加意欲は高く、特に聞く・話すことに関しては、積極的に取り組む姿勢が見られるが、書くことについては努力を要する生徒がいる。思考・判断・表現の力を支える知識・技能（文法や語彙）が身に付いていない生徒も見られる。	パターンプラクティスだけでなく、ゲームやクイズ等で繰り返しアウトプットする機会を増やす。書くことについては、抵抗感が生まれないように、適宜選択肢や単語のレベルからスモールステップで取り組めるように工夫する。また、表現したいという意欲を引き出せるよう生徒にとって身近な話題をなるべく取り入れていく。